

横浜にぎわい座 令和元年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	上杉委員	垣内委員	加世田委員	藤崎委員
一 文化事業①	<p>【評価する点】</p> <p>1 「にぎわい寄席」は両協会が共演する寄席公演として唯一のもので、各回変化に富んだ顔付けの工夫があり意義深い。演芸をじっくりと楽しむ雰囲気も漂い、演者にも強い対抗意識が感じられる。</p> <p>2 「上方落語会」の落語と歌舞伎・文楽との関わりを探る企画や恒例の「狂言と落語で楽しむ」シリーズを評価したい。</p> <p>3 大衆芸能を教育に活用するニーズが高まって来ている状況を評価し、なお一層の拡大を期待する。</p> <p>4 二つ目の「登竜門シリーズ」から芸能ホール独演会への登用を評価する。今後も積極的な後押しを期待したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>1 「名作落語のタベ」は自己評価で、演目の魅力より人気演者で集客を高めていることを課題に上げており、そのことを評価したい。演者には皆それぞれが得意としている演目があり、その噺得意としている演者（必ずしも名前が広く知られていなくても）を発掘し、人気演者との組合せも新鮮を感じさせるのではないか。多くの演者の持ちネタを調べる苦労は大変であるが…。</p> <p>2 講談ネタの落語と元の講談との比較、落語と狂言ネタの日本舞踊（話芸ではないが）との競演や落語ネタの歌舞伎など他の古典芸能への展開を探るのも面白いと思われる。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>事業全体として概ね目標に達しており、良好なパフォーマンスと判断できる。多様なプログラムを用意することで、顧客満足につながり、コロナの影響がある中、十分な誘客になっているように思われる。また、公演に関わるセミナーの実施や、バックステージツアーなど理解を深める活動も丁寧に行われており、好感がもてる。特に、「名作落語のタベ」は目標値を大きく上回る誘客実績を上げ、高く評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>若手育成のための公演は引き続き継続されたい。鑑賞者拡大については、いくつか相手側が見つからなかったために実施に至らなかつたものもあるが、何が障害であったのか、あるいはプログラムの組み方が現実的でなかつたのかどうかなど、検証による改善を望みたい。なお、コロナの影響をどう考えるのかは、政策課題であると思われる。コロナ禍という外的要因がなければ本来の目的を達成できた場合、未達とするだけよいのか、検討が必要であろう。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大衆芸能の拠点として、寄席の充実にとどまらず、狂言と落語のコラボ、若手育成の登竜門シリーズ、体験講座など、多様な対象に向けての様々なプログラムを企画・実施した。 ・新型コロナの影響で3月休館となるなど、公演数は減少したが、実数として目標を上回る結果を出していることは、高く評価できる。実施公演数での月平均入場者数では、目標の1.2倍となっており、魅力ある公演で集客が大変順調であったことが読み取れる。 ・若手育成のコンセプトを明確にし、集客もできており、若手成長の成果を出している。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にぎわい座に来る習慣のない方にも大衆芸能の面白さを知ってもらうよう、近隣施設はじめ他施設と更に連携し、ファンを増やす工夫を期待したい。 ・全公演で実施しているアンケートの回収率を上げる工夫をしていただきつつ、意見を運営に反映する取り組みに期待したい。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経常公演事業は公演数、入場者数、チケット販売数ともに大幅に目標を超えている点。 ・創造的挑戦や若手の登用支援なども積極的に取り組んでいる点。 ・ワークショップやアウトリーチ活動を継続展開している点。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣文化施設との連携による新しい舞台作品の創造については、更なる可能性があるので新規開拓を期待します。 ・「大人のための寄席体験」は新規顧客を獲得する機会となるので、引き続き新規プログラムの開発を期待します。 ・学校プログラム等や貸切公演については、要請を受けて実施する性質ではありますが、おのずとそうした要請が来るような情報発信を期待します。
一 文化事業②	<p>【評価する点】</p> <p>1 電子大福帳に全公演情報を入力し1月より運用を開始したこと。自主公演について担当者が公演の様子を文章や写真でSNS発信し舞台の感動を伝える取り組みは評価される。それへの感想や反応を企画に生かすことができればより意義深いと思われる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価する点】</p> <p>情報収集提供、市民への取り組みは概ね進んでいると思われる。特に情報発信は熱心に行われているものと考える。賑わいづくりや地域連携は先方との関係性が重要であり、努力は評価できるが、障害の検証も必要であろう。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>情報入手の方法は、年代によって大きく異なることから、ターゲットとする集団の特性をよく検証しながら進めさせていただきたい。自己評価にも記載されているが、予算は有限で、効率性やミッションとの関係などを総合的に判断しながら、優先順位を決めていく必要もあるうかと思う。試行錯誤は恐れずに行っていただき、そのうえで効果を検証しながら次の事業につなげてほしい。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の発信として、ホームページで「電子根多帳」を開設したり、twitterを効果的に使用している。特にtwitterではほぼ毎日発信し、リアルな情報を提供できている。 ・企画展を数多く実施しており、にぎわい座が大衆芸能拠点であることの可能性を広げている。 ・みなとみらいと野毛地区を繋げるイベントを目標地以上実施した。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にぎわい座における大衆芸能の範囲に示されている芸能について、種類や人材など、更に周知されることを期待したい。 ・「にぎわい座は落語をするところ」のイメージがまだまだ強いと思う。多様な講座・イベントを実施していることがより周知されるチラシの工夫に期待したい。 ・感染症などの影響で、来館者数を制限する状況になることも考えられる。これを契機として、例えば区内施設をサテライトとして活用するなど、オンラインも活用した事業の検討に期待したい。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公演前から公演後まで観客が興味を持ちづけられる情報提供方法の探索に取り組んでいる点。 ・常設展の展示見直しや館内装飾の展示替えなど、絶え間なく館内の見せ方を検討し、おもてなしを体現している点。 ・市民センター活動を市内全域の団体や施設で積極的に実施している点。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ改善提案アンケート（年1回）は、実施回数を増やすことによりタイムリーな改善実施が期待できます。 ・旅行やツアーでの企画商品化は、にぎわい座のプレゼンスを高める取組でもあるので、さらなる展開を期待します。 ・職業体験、アートマネジメント実習などの受入があることを念頭に置いて公演事業を計画されることを期待します。 ・公演情報の英語化は寄席文化に興味を持つ外国人に対するアピールポイントにもなるので、早期対応を期待します
二 施設運営	<p>【評価する点】</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>1 経常公演期間中の空き時間について、設置されている寄席周りを活用した公演プランを作成し12月から宣伝を開始したことを評価し、その取組みの継続を期待する。日本舞踊など演芸以外の分野でも効果ある使い方が可能と思われる。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>コロナや台風の影響がある中、健闘している。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>練習室等についてはこれまで同様利用率に課題がある。ロケーションの良さが利用に必ずしもつながっていない理由をぜひ分析してほしい。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理運営の専任担当者をおいたり、見学対応を全員で実施するなど貸館の運営体制を強化した。施設見学は目標の約3倍となり利用促進の一助になったと考えられる。 ・大衆芸能の専門性向上に向け、担当職員の育成や外部人材も登用している。 ・2名がサービス介助士の資格を取得し、来館者に対するサービス向上の一助とした。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にぎわい座の貸館として利用方法を、どのスペースがどう利用できるか、より具体的に示し利用促進につながる情報提供に期待したい。 ・大衆芸能の専門施設としての専門性がより発揮されるよう、引き続き人材育成に努められるよう、期待したい。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス介助士資格を職員2名が取得したことにより、接遇面の向上が期待できる点。 ・芸能ホール、小ホールそれぞれの施設特性を活かした公演開催プランの広報などの取組に着手した点。 ・利用希望者施設見学を年間35件実施した点。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天候不順や感染症による休館等の影響を考慮しなくてはいけませんが、施設の稼働率がいずれも目標未達でした。観客や利用者が安心して来館し、楽しんでいただけるような取組に期待します。また、来館できなくてもにぎわい座を楽しめるコンテンツを提供することも検討してされるとよいでしょう。

横浜にぎわい座 令和元年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	上杉委員	垣内委員	加世田委員	藤崎委員
Ⅲ 維持管理	<p>【評価する点】</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>1 新型コロナウイルスの感染拡大防止に係る一連の対応を評価する。ただこの状況はこれからどう推移するか誰にも予測できないことなので、国や自治体の対応策を躊躇なく実施していくためには、予め起りうる事態をいくつか想定し準備して置くといざ緊急事態となっても慌てずに対処できるのではないかと思います。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>適正に行われており、不具合による貸し出し停止ゼロやアンケート結果の高得点のほか、コロナや台風といった災害に対しての努力は評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>施設の劣化へのより細やかな対応が必要となりつつある。長寿命化も含め、努力を期待したい。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化による故障や破損など、要対応案件が増加している中、優先順位を判断しつつ適切に管理した。 ・台風や新型コロナウイルスの対応など、これまで経験したことのない状況となったが、各関係先と連携しつつ、施設の適切な管理をおこなった。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年の天候不順や感染症の不安が継続する状況において、安心して利用できる施設であるための取り組みに期待したい。 ・利用者の安心・安全確保のための適切な修繕を続けられることに期待したい。 ・サービス介助士の力を発揮していただき、高齢者や障がい者などあらゆる利用者へのサービス向上に期待したい。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策として、対策備品の確保や清掃強化、消毒、抽選会の延期・代行受付などの対応を適切に取った点。 ・不具合による施設貸出停止ならびに施設管理者有責人身事故件数が年間0件だった点。 ・異なる設定での全職員参加の避難訓練を複数回実施した点。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年増加する異常気象や収束時期が見えない感染症など、これまで以上に緊急時対応への取組が重要となります。それには、マニュアルの改訂だけ留まらず、例えば外部との連絡手段が遮断された場合や所管部局の対応時間外に自体が発生することも想定し、職員・スタッフがどう行動するかなどについても全体共有して下さい。
Ⅳ 収支	<p>【評価する点】</p> <p>1 利用料金収入+自主事業収入=165 百万円 自主事業費支出=129 百万円 収支差=36 百万円の黒字となり、事業の継続のために最も重視される数字で大いに評価する。</p> <p>2 チケット購入方法の利便性向上に努め、特に公平感のある販売に配慮していることを評価する。</p> <p>3 チケットホルダーへの広告掲載は目に見える成果として評価する。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価する点】</p> <p>コロナ等の影響がありつつも、誘客が入場料収入につながっている点は評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>従来から課題であったが、利用の促進が必要である。これが利用料金収入の伸び悩み、ひいては総収入へのマイナスの影響となっている。今後修繕費なども必要となってくる中、できる限り収益性を高める努力を望みたい。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響があったにも関わらず、自主事業収入が200万円多い決算となっており、広報・集客の努力が表れていると思われる。 ・前年踏襲ではなく、小さなことでも見直し、経費削減につなげている。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響が継続する不安定な状況でも、健全な収支を維持する運営についての都度見直しがされることを期待します。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に自主事業収支が黒字達成したことにより全体収支の収支も均衡している点。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用料金収入が予算未達です。現在、部屋別稼働率の改善のために広報を含め様々な取組が実施されているところですが、利用者の立場から使い勝手のいい条件が何かを探索する試みをされるとよいでしょう。
その他		全ての劇場がそうであるが、コロナ禍は密を本質とする舞台芸術に大きなダメージである。特に、高齢者層が観客ボリュームゾーンである本劇場では、アフターコロナで顧客が戻るように、現時点で様々な対策が必要である。オンラインの推進と効率化、オンライン配信による普及、安心安全の確保と周知など、ぜひ工夫を凝らしてほしい。		
総括	<p>1 「にぎわい寄席」は両協会共演の特徴を生かした演者の工夫、客席の雰囲気作りに配慮した取り組みを評価する。</p> <p>2 「名作落語の夕べ」は毎回テーマを設け、落語の奥深さを紹介する好企画であり、単発の「上方落語会」「狂言と落語で楽しむ」シリーズは他の伝統芸能との関わりを探る有意義な企画で、いずれもくにぎわい座の看板公演となっている。</p> <p>3 予想だにしない世界的な感染症拡大の災禍に見舞われ、中止や客数制限でイベントは甚大な被害を被ったが、この困難な状況下において、人が生きていくために芸能は不可欠であるとの思いが却って増したように思われる。事業運営には多くの困難が想定されるが、行政と事業体が一層の智慧と行動で乗り切っていただくよう強く希望し期待する。</p>	令和二年度は各項目ごとには未達のものもみられるが、概ね良好なパフォーマンスであったと評価できる。これも、スタッフの努力と創意によるものと考えられる。ただ、今後は、外的要因や施設の制約、相手側の事情など管理者の努力を超えた要因に左右される事業については、行政との密接な連携も重要であるが、従来と同じではない評価の考え方も検討する必要になるのではないだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスや台風の影響があるなか、休館中でもTwitterを効率的に使い、ファン層に様々な工夫をしたり、大衆芸能の面白さを発信しようとする姿勢を評価します。 ・子ども向けプログラムをはじめ、様々な世代に向けた多彩なプログラムをそろえ、ファン層の拡大に努めていることが確認できました。 ・若手育成のコンセプトを明確に打ち出し進めていることを評価します。にぎわい座卒業がブランドになるよう、公設の大衆芸能の拠点として、にぎわい座で育つ意味を、更に打ち出していくことを期待します。 ・落語にとどまらない大衆芸能全体について、更にファン層が広がるよう取り組まれることを期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの地道な広報活動や関係団体・組織との連携強化が浸透したことでの事業の安定性が高まり、結果的に大型台風による公演中止や新型感染症に伴う臨時休館などの厳しい環境下においても、施設全体の収支を均衡させた点は高く評価できます。 ・感染症に伴い、利用者の行動変容や生活様式の変化は横浜にぎわい座の事業にも影響を与えるものと思われます。新しい時代における横浜にぎわい座の役割について、指定管理者と所管部局との間で十分協議されることを期待します。